



馬上議長



大竹管理者



中村理事長

水管工

4年ぶり総合防災訓練

県央産技校生徒らも参加

宇都宮市管工事業協同組合は14日、県央産業技術専門学校で総合防災訓練を開催した。訓練は同組合の70周年を迎えるにあたり、大規模災害に備える目的で宇都宮市上下水道局と締結した「災害時における応急対策業務の協力に関する協定」に基づいて行われた。

訓練には同組合の会員ほか、大田原管工事工業協同組合、足利市上下水道設備事業協同組合、県央産業技術専門学校の建設設備課生徒ら、約130人が参加した。

訓練開始にあたり、中村理事長が訓示を行い「近年、頻発する地震を始め、大雨や台風などの自然災害により甚大な被害をもたらされている。関東地方においても首都圏直下型地震が起きると

予測されており、東日本大震災規模の災害に備えると共に、市民生活に直結するライフラインを確保するため、宇都宮市上下水道局と災害時の協定を締結したほか、令和元年の総合防災訓練の実施などに取り組んできた。訓練は4年振りとなるが、今後とも市民の安全で安心な暮らしを支えるライフラインの確保とそ

の充実、強化に取り組みたい」と訓練に臨む姿を説いた。来賓からは、大竹信久上下水道事業管理者が「水道事業を取り巻く環境は年々厳しさを増しているが、市民生活におけるライフラインとしてこれ以上安全安心で質の高いサービスの提供が求められる。市では施設の耐震化など、災害に強く安全な基盤づくりなどを進めているが、これらの推進には組合との連携強化が不可欠」と

の佐藤栄一市長のあいさつを代読した。また、馬上剛市議会議長は「実際の災害を想定したこの訓練は重要な。本日は日頃の訓練の成果を十分に発揮してもらえと期待している」と話して災害への備えを期待した。訓練では始めに、参集訓練を行った。続いて応急復旧訓練では、会場に設置した配水管を用いて水修理訓練、仮設給水栓設置訓練、木栓による止水訓練、液体窒素による凍結工法訓練を実施。応急給水訓練では、トラックにステンレス製給水タンクを設置し、給水袋へ給水した。



器具による止水訓練(上)と仮設給水栓設置に産技校生徒が参加

会場では防災フェアも同時に開催。清水合金製作所、前澤化成工業、前澤工業、LEXILがブースを開き、災害対策商品を表示し、参加者らの関心を引いていた。

訓練終了後の講評では中村理事長が「いずれの訓練もライフラインの復旧に重要な実践的な内容であったが、管工事の大口集団の名にふさわしく、技術と能力を遺憾なく発揮できた。また県央産業技術専門学校の若い力をみる事ができた。今後の管工事業を担って貰えることを期待している」として、訓練が迅速かつ的確に対処できたことを大いに成果だったと述べた。また「組合として、引き続き大規模災害発生時に備え、しっかりと対応していきたい」と、取り組みに対する理解と協力を求めた。